

## 昨日から今日、今日から明日へ

海外安全センター発足30周年に寄せて、日外協の海外安全アドバイザーを務める皆さんに、それぞれの海外安全・危機管理にまつわる体験と想いを寄稿してもらった。

### 常に情報リテラシーを意識

筆口秀一郎

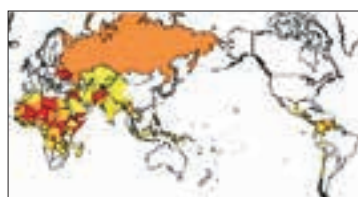


(ふでぐち・しゅういちろう)  
三井物産㈱入社後、南アフリカ・ジンバブエ駐在、人事部勤務などを経て、2006～13年安全対策室長。引き続きコーディネーターとして三井物産の安全対策を担い、現在、広く危機管理コンサルティング事業を展開。

安全対策との出会いは、2001年9・11米国同時多発テロである。当時、営業部門から人事部へ異動後まだ日も浅く、担当外で予備知識もないまま、社員の安否確認を手探りで始めたことを記憶している。以降、人事業務に加え安全対策を担うことになり、2006年に4代安全対策室長に任用された(注：安全対策室は1988年に設立された直轄組織)。これを機に、未整備であった安全対策に関する社内方針・規程の策定、BCP(災害、感染症)構築を含む緊急時の体制づくりやマニュアル整備、テロ対応実地訓練の整備などを推進するとともに、9・11安否確認の経験に照らし渡航者トラッキングシステムを開発した。

安全対策に携わり22年になる。その間、多くの案件に関わり、これらのオペレーション記録は後の重要な手引書となっている。中には、8件の死亡・ご遺体搬送案件に対応した2008年や、「アラブの春」、モスクワ空港自爆テロ、NZ地震、3・11東日本大震災、ノルウェー連続テロ、トルコ地震、ミンダナオ島プラント襲撃テロ、タイ洪水、と大きな案件への対応が相次いだ2011年など、深く記憶に残る年もある。

危機管理ではオペレーション記録(事例)や日々積み上げる情報の存在が必須である。かつて日外協・海外安全部会長として、また現在は日外協「海外安全・危機管理認定試験」講師として、常に情報リテラシーを意識している。2019年から外務省がホームページにアップしているe-Learning「海外安全クイズ」のコンテンツを短い準備期間で提供できたのは、日外協メンバーとの協働と、日常の情報基盤の整備が背景にあったからこそと言える。また、情報を伝えるにも工夫が必要である。地図情報もその一例で、現在、外務省「危険情報」は地図で示されている。これには海外安全官民協力会議での提言を受けて、外務省が導入したという経緯がある。



外務省危険情報



筆者作成テロ関連地図情報(例)

日外協にはこれからも情報リテラシー向上とともに、海外邦人の安全保護に資する発言や活動を積極的に行っていただきたい。

近年、世界の治安情勢は複雑に悪化しており、企業が社員の安全配慮に関心をもち、対策を講